

学習指導要領		都立杉並総合高校 学カスタンダード	
(1) 世界史の扉	<p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人類は自然環境に適応しながら進化を遂げ地域ごとの文化を育ててきたこと、人類の進化の課程を把握・食料生産や娯楽、人間としての成長と社会としての課題、東アジアにおける日本が歴史的に中国、朝鮮半島の影響をうけ、その本質的意味と課題を常に意識する。 <p>[西アジアの地理的特質とオリент文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリент文明においては、大河を利用した治水・灌漑を行うために、宗教的権威による神権政治の出現について知っている。 ・メソポタミアにおける諸民族の興亡、エジプトの統一国家の形成、東地中海の諸民族の活動を理解し、オリент文明の特徴を把握している。 <p>[イラン人（ペルシャ）の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリент世界を統一したアッシリアとアケメネス朝の特徴と相違点、ササン朝・パルティアの統治体制とゾロアスター教などのイランの文明について知る。 ・地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマは現在グローバル化した地球に圧倒的な影響を与えている以上避けては通れない課題であることを認識する。 	
	(2) 諸地域の形成	<p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p> <p>イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握</p>	<p>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中海一帯の自然の特徴により、地中海で交易が発達した理由を理解する。 ・エーゲ文明の特徴、ポリスの形成過程、ポリス社会の特徴を理解する。 ・アテネにおける民主政の成立過程を、戦術の変化をふまえて理解し、ポリス社会の衰退の原因を理解する。 ・ポリスの変容からヘレニズム世界の形成までの歴史的過程を理解する。 ・ローマの共和政の特色と支配の拡大が政治制度・社会に与えた変化を理解する。 ・元首制期のローマ社会の特色をキリスト教と関係を含めて理解する。

学習指導要領	都立杉並総合高校 学カスタンダード
<p>させる。</p> <p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p>	<p>[東アジア世界の地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国の黄河流域と長江流域の気候の特徴と農業の特色を理解する。 <p>[中華文明の起源と秦・漢帝国]</p> <ul style="list-style-type: none"> 仰韶文化と竜山文化の特徴、邑制国家の成立と殷と周の支配体制の特徴を比較できる。 春秋戦国時代の政治勢力の興亡、農業生産の増加が社会に与えた影響、諸子百家の代表的な思想の特徴を理解する。 秦の始皇帝の統治政策、漢の統治政策の推移、武帝の時代の対外遠征、漢代の文化の特徴などを知る。 <p>[内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> 青銅製の馬具や武器を持った騎馬遊牧民の活動の特徴を匈奴の冒頓単于の時代における強大化と漢の武帝の遠征の影響、その後の衰退の経緯を知る。 三国時代・五胡十六国時代・南北朝時代の諸国家の興亡や異民族の華北支配の影響、江南の開発による社会経済の変化、魏晋南北朝の文化の特徴を知る。 <p>[唐帝国と東アジア諸民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 均田制を基礎とする租庸調制・府兵制の仕組み、律令制を基盤とした隋・唐帝国の支配体制を知る。 唐代の国際性豊かな文化の特徴を、長安を中心に理解する。 唐の均田制崩壊の原因と過程を社会の変容、突厥・ウイグル・吐蕃・南詔などの周辺国家の特徴と唐との関係を知る。 新羅による朝鮮半島の統一の歴史的過程を理解し知る。 <p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> 7世紀の西アジアの情勢とムハンマドの活動から、イスラーム成立の背景と特質を知る。 アッバース朝が「イスラーム帝国」と呼ばれる理由をウマイヤ朝との比較から理解する。 カリフの指導下におけるウマイヤ朝、アッバース朝それぞれの支配地域を確認するとともに、アッバース朝でイスラーム法に基づく国家体制が確立し、ム

学習指導要領	都立杉並総合高校 学カスタンダード
	<p>スリム商人を中心とした交易活動が活発化したことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アッバース朝の分裂により成立した地方政権の発展について理解する。 <p>[トルコ系民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルジューク朝、カラハン朝、ガズナ朝などのトルコ系国家の興亡やイル=ハン国による西アジア支配について理解する。 <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デリーに本拠を置いたインドのイスラーム諸王朝の興亡、東南アジアにおけるマラッカ王国、アフリカにおけるマリ王国やソンガイ王国の興亡を理解する。 <p>[イスラーム文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学問分野におけるイスラーム文化の業績を具体的な事例に即して理解する。イスラーム文明の特質と世界史的意義を認識する。 <p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビザンツ帝国の統治体制の特徴を西ヨーロッパ世界との比較から理解する。 <p>[西ヨーロッパの封建社会の成立と変動]</p> <p>以下の部分に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲルマン人の大移動後にフランク王国が強大化し、ローマ=カトリック教会と提携することで、西ヨーロッパ世界の中心勢力となったこと。 ・イスラーム勢力・マジヤール人・ノルマン人の活動が封建社会の形成に与えた影響。 ・封建制の成立の背景と封建社会における荘園の構造、封建的主従関係による階層組織。 ・十字軍の活動をはじめとする11世紀以降の西ヨーロッパ世界の拡大、十字軍が政治・社会に与えた影響、農業生産の増大と商業の活発化、中世都市の発達、それらによる封建社会の変容。 ・教皇権の衰退の過程と各国における国王権の伸長。 <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教を中心とした中世ヨーロッパ文化について、具体的な事例から理解する。

学習指導要領		都立杉並総合高校 学カスタンダード
(3) 諸 地 域 世 界 の 交 流 と 再 編	<p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p> <p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビザンツやイスラームの影響を受けて西欧文化が発展したことを理解する。 <p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「タタールの平和」とは何か、モンゴルが、13世紀に朝鮮半島からロシア平原に及ぶ広大な地域を支配した過程やその世界帝国が元を中心とした諸ハン(汗)国との連合体に再編、元の中国支配の特徴を理解する。 ・元がユーラシアを海域と内陸で循環する交通・交易体系をつくりあげたことを知る。 ・駅伝制が発達したモンゴルの陸上交通路と宋代の海上交通路が結び付き、広大なネットワークが形成、元及び諸ハン国の解体の過程と勃興勢力、14世紀半ば、モンゴル帝国の解体により、明やティムール、ムガル、ロシアなどが誕生し、直接モンゴルの支配が及ばなかった日本や東南アジアなどの地域でも国家・社会の変容と再編が進んだことを知る。 ・同時代性に着目して設定した主題について、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどして、歴史的事象の空間的關係を把握し、その時代の世界の特質や地域世界相互のかかわりを明らかにすることができる。 <p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスが起きた背景と当時の時代状況について都市の政治に着目・思想・芸術・科学などの分野におけるルネサンスの展開・宗教改革の背景を理解し、ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革と、対抗宗教改革の具体的な展開・スペイン・イギリス・フランス各国における絶対王制、主権国家の成立の過程について知る。 <p>[世界各地への進出と大西洋世界の形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人による探検の実績を地図上で確認できるとともに、大航海時代の影響として商業革命と価格革命について知る。 ・アジア市場におけるムスリム商人との対立や、ポルトガル・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国

学習指導要領	都立杉並総合高校 学カスタンダード
	<p>による覇権争いについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大陸における植民地争奪戦争や奴隷の三角貿易の開始が与えた影響を考える。17～18 世紀のヨーロッパ文化・経験論、合理論、ドイツ観念論、自然法思想、啓蒙思想について知る。 <p>[産業革命]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスで世界最初の産業革命が起こった理由・背景、工業の技術革新の展開、交通革命の展開を知る。 ・産業資本主義の成立により発生した労働問題や社会問題を現在の「格差社会」と合わせて考える。 ・欧米が産業革命を達成し、世界が先進工業国と従属する地域に分かれ国際的分業体制が成立したことを知る。 <p>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を本国の重商主義政策に対する植民地の抵抗と啓蒙思想の影響を含めて考える。 ・フランス革命の背景を理解し、革命の経過、革命が急進化していく理由を議論する。 ・革命の進行で対外戦争が起こった意味を理解し、軍人ナポレオンがいかにして権力を握ったのか、自由主義・ナショナリズムを伝播させたナポレオン戦争の意義を日本人として考える。 ・ラテンアメリカ諸国の独立の経過を理解する。 ・アメリカ合衆国の領土拡大の過程や南北戦争後の経済的發展と併せて黒人やインディアンなどの人権の問題について考える。 ・イギリス自由貿易と、保護貿易国が対抗して市場の拡大を目指し諸地域に進出した結果、アジア諸国は国際的分業体制に組み込まれていったことを知る。 <p>[オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国が国内の民族・宗教的対立とヨーロッパ諸国の干渉で衰退していったことと、西欧化、イスラーム改革運動が行われたことを知る。 ・インドの植民地化が進む中でインドがいかにしてイギリスに経済的に従属させられていったかを実感す

学習指導要領	都立杉並総合高校 学カスタンダード
<p>アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p> <p>ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p> <p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>(4) 諸地域世界の結合と変容</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジア諸地域でヨーロッパ諸国が大規模なプランテーション経営を展開したこととその影響、民族主義の高揚を知る。 ・18世紀から19世紀にかけてのイギリスの対中国政策の推移、南京条約の内容について理解する。 ・アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯について、清朝の旧体制温存と変革、近代化と排外主義や、ロシアで初めての社会主義革命が起きた背景を考え、対ソ干渉戦争と内戦、ソヴィエト政権の軍事的・経済政策について知る。 <p>[大衆社会の出現とファシズム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ・ワシントン体制下で進んだ国際協調の流れと限界を理解する。 ・ヴァイマルドイツが置かれた政治経済の状況について理解する。 ・1920年代のアメリカ合衆国の「永遠の繁栄」と呼ばれた経済の成熟を理解する。ウィルソン以後孤立主義から転換したことを認識する。 ・イタリアでムッソリーニが一党独裁体制を確立していった過程を知る。 <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国における国民党と共産党の対立、インドにおける民族運動の高まりと国民会議派と全インド=ムスリム連盟の対立について理解する。 <p>[世界恐慌とその後の世界情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌による各国の経済的な影響を理解するとともに、ニューディール政策やブロック経済の内容とそれが与えた影響について理解する。 ・満州事変から日中戦争に至る過程やナチス=ドイツが独裁権を確立していった背景と経過を考える。 ・ソヴィエト連邦でスターリンが一国社会主義論を唱え、五カ年計画を実施する中で独裁体制を形成する過程を考える。 <p>[米ソ両陣営による冷戦の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連合の主要機関の役割とともに、国際的な経済・

学習指導要領	都立杉並総合高校 学カスタンダード
<p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p> <p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p>	<p>金融の体制の形成、戦後の東・西ヨーロッパの情勢とトルーマン=ドクトリンやマーシャル=プラン・ドイツの東西分断、中華人民共和国の成立、ヴェトナムの情勢、朝鮮戦争などから冷戦体制が深化と悪化したことについて理解する。</p> <p>[戦後の復興と経済発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> 西ヨーロッパ統合の流れ、日本が朝鮮特需で経済復興、ソ連との国交回復、国際連合加盟で国際社会への復帰、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題と南北問題、東西問題について知る。 東南アジア・南アジア・西アジア諸国の独立の過程とアフリカ諸国の独立が進み、1960年の「アフリカの年」平和五原則の提唱、アジア=アフリカ会議や非同盟諸国首脳会議のバンドン会議開催がもつ歴史的意義を考える。 アジア・アフリカの新興独立国の多くが慢性的な貧困に苦しみ、国際機関や欧米諸国の援助に依存せざるを得なかった事、得る権利があった事を知る。 <p>[平和共存の模索]</p> <ul style="list-style-type: none"> キューバ危機を契機に米ソの緊張緩和の方向が現れ、核兵器の拡大を制限する交渉が始まったこと、1950年代の「スターリン批判」やハンガリー事件、1960年代の「プラハの春」をめぐる動きなど、東側陣営の変化中ソ対立の推移と大躍進政策の失敗から文化大革命後に至る中国の変化・ヴェトナム戦争の経過と結果、アメリカ合衆国の経済に与えた影響を知る。 <p>[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長]</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の貿易収支が赤字になった背景 第四次中東戦争の勃発と第一次石油危機の発生 先進工業国で、省エネ対策、代替エネルギーの開発、先進技術開発が進む中での抵抗と摩擦の激化。原発問題について理解する。 <p>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国における改革・開放路線の推進と天安門事件、ヴェトナムにおけるドイ=モイ政策の推進の結果、ソヴィエト連邦のペレストロイカと東欧諸国民主化へ

学習指導要領		都立杉並総合高校 学カスタンダード
(5) 地球世界の到来	<p>地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>の影響、東欧諸国の民主化、冷戦の終結、ソヴィエト連邦の解体の一連の歴史的過程と背後関係も知る。</p> <p>[地域統合の進展と地球的諸課題をめぐる問題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦後のグローバリズムとそれに伴って発生した諸問題、EU に代表される地域経済圏形成の動きなどを理解する。 ・冷戦後の地域紛争とその終息、それに伴って様々な問題が生じていることを理解させ、平和の構築のむずかしさと環境や資源・エネルギー問題が解決しない歴史的背景を考えることができる。